

## 謝 辞

本論文を執筆するにあたり、多くの方々にお世話になった。

指導教官の梶茂樹先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）には、フィールドワーク準備の段階から論文を書き上げるまでの長きにわたり、常に助言をいただき、多大な時間を割いてご指導いただいた。退官されるまでの1年間、指導教官をしてくださった日野舜也先生（京都文教大学教授、東京外国語大学名誉教授）には、アフリカの魅力を十分に教えていただいた。加賀谷良平先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）には、論文が形になる前から何度も読んでいただき、特に音韻に関してご指導いただいた。新谷忠彦先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）には、論文の細部にわたって貴重な助言をいただいた。湯川恭敏先生（東京大学大学院人文社会系研究科教授）には、調査に同席させていただくという最も具体的な形で調査法を教えていただいた。上岡弘二先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）には、初期の版を丁寧に読んでいただき、貴重なコメントをいただいた。Robert R. Ratcliffe 先生（東京外国語大学外国語学部助教授）には、英語に関してコメントをいただいた。小森淳子さん（大阪外国語大学非常勤講師）、上田広美さん（東京外国語大学外国語学部専任講師）、榮谷温子さん（国立国会図書館海外事情課 非常勤調査員）には、初校に対して有益なコメントを数多くいただいた。マテンゴ社会の研究をされている加藤正彦さん（京都大学大学院在籍）とマテンゴ音楽の研究をされている Stephen Hill さん（イリノイ大学大学院在籍）には、現地においても帰国してからも、いろいろな情報を快く提供していただいた。

これらの方々のご指導とご協力、そして暖かいお励ましによって、この論文を書き上げることができた。厚くお礼を申し上げたい。

タンザニアでの3回にわたるフィールドワークは、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）「東アフリカにおける地域共通語に基づく文化圏生成とエスニシティの構造（課題番号 08041015）」による。フィールドワークの機会を与えていただき、様々な形でお世話になった、研究代表者の宮本正興先生をはじめ、大阪外国語大学外国語学部地域文化学科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室の中島久先生、稗田乃先生、竹村景子先生に感謝の意を表わしたい。なお、タンザニアにおける調査は Tanzania Commission for Science and Technology の許可によって可能となった。

最後になったが、並々ならぬ忍耐を持って筆者の調査に協力してくださったインフォーマントの C. S. Ndunguru Kamchatika 氏と John B. M. Kasuku 氏をはじめ、常に友好的に暖かく調査を支援してくださったマテンゴのみなさんに、心からの感謝をささげたい。